



2019-20 年度 山形南ロータリークラブ会長方針

「ふるさと・発信・リターン」

ふるさとの良さを見直し、全国に発信、そしてリターン(還元)

山形南ロータリークラブ会報

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT2800



RI会長：マーク・ダニエル・マローニー 2800地区ガバナー：大久保 章宏 ガバナー補佐：小松 幸弘

会長：青山 治右衛門 幹事：佐藤 直人 会報・史料委員会 委員長：石山 祐介

委員：金田 亮一 斎藤 伸治 遠藤 幸司 鈴木 崇弘 佐々木啓充

RI会長メッセージ



ロータリーは世界をつなぐ

2019-20年度国際ロータリー会長

マーク・ダニエル・マローニー 氏

ロータリーの礎は「つながり」です。若い弁護士としてシカゴにやって来たポール・ハリスがロータリーを創設した最大の理由、それは見知らぬ街でほかの人たちと「つながる」ことでした。それから1世紀以上が経った今、私たちの周りには、ポール・ハリスの時代には想像もできなかったような友情とネットワークを築くための方法が数多く存在します。それでも、ロータリーにおける「つながり」は独特であり、ほかに類を見ません。

国際ロータリーには、地域社会とつながり、職業のネットワークを広げ、強くて末永い関係構築ができる確固とした使命と構造があります。会員による数多くのプロジェクトやプログラム、ポリオ撲滅活動におけるロータリーのリーダーシップ、国連との協力などを通じ、私たちはグローバルコミュニティとつながっています。私たちの奉仕活動は、同じ価値観を共有し、より良い世界のために行動したいと願う人びとの結びつきをもたらします。また、ロータリーがなければ出会うことがなかった人びと、共通の考えを持った人びと、私たちの支援を必要とする人びととつながり、世界中の地域社会で人生を変えるような活動を行うことを可能にしています。

21世紀の新たな10年の始まりに、私たちはロータリーの未来を形作っています。2019-20年度、ロータリーは新しい戦略計画を実行に移し、規定審議会が採択した革新性に応え、より活性化された重点分野において活動します。しかし、ロータリーの未来を形作る本当の場所はクラブです。刻々と変化する現実に対応するために、ロータリーはクラブに注力していかなければなりません。

クラブはロータリーでの経験の中心部ですが、今ではクラブのあり方をより創造的かつ柔軟性をもって決めることができます。これには例会の方法や、何をもって例会とするかを検討することも含まれます。会員増強のアプローチにおいては、組織立った戦略的・革新的な方策が必要です。そうすることで、地域社会とのより広く、深いつながりができるだけでなく、より多様な会員に魅力を感じてもらい、積極的な参加を促すことができるでしょう。

実際のところ、ロータリーは家族です。そうであるにも関わらず、会員組織の構造やリーダーシップの要求などがあることで、今日の若い職業人にとってはロータリーが手の届きにくい存在となっているようです。ロータリーは、家族との時間を犠牲にするのではなく、家族との時間を補うような経験を提供する場である必要があります。クラブが温かく、みんなを受け入れるような雰囲気があれば、家族と奉仕活動は両立でき、家族志向の若い職業人にロータリー奉仕や市民としての参加の機会を提供できます。また、ロータリーの役職に対する期待事項を、多忙な職業人にあわせて現実的かつ管理可能なものとする事で、将来ロータリーのリーダーとなる次世代のロータリアンのスキルを高め、ネットワークを築くことができるでしょう。

2019-20年度には、「ロータリーは世界をつなぐ」のテーマの下、ロータリーの奉仕を通じて、有能で思慮深く、寛大な人びとが手を取り合い、行動を起こすためのつながりを築いてまいりましょう。

例会場／ホテルキャッスル 例会日／毎週火曜日 12:30～13:30

事務所／山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社 社務所ビル 2F TEL.023-632-7777 FAX.023-624-5200

山形市内 例会日案内

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
山形西 山形イブニング	山形中央	山形	山形北	山形東



地区テーマ

元気なクラブづくりのために

「ロータリーの木」の苗木を植えましょう クラブに、地域社会に、世界に、次世代の為に

国際ロータリー第2800地区
2019-20年度ガバナー

大久保 章宏 氏

1905年シカゴにロータリークラブが誕生して、国際ロータリーが現在発展し続けることは、ロータリーの考え方が時代と共に変化を続けながらも、流れている思想は脈々と受け継がれている事が大きな要因と考えています。世界的には発展を続けても、我が日本、2800地区においては会員数の減少が続いています。会員数だけで元気なクラブであるとは言えませんが、発展的にクラブを維持する為にも会員増強は大切な要因と考えています。

253地区から2800地区へ移行され、初代2800地区ガバナー故野川勝二氏（天童RC）が就任されて以来、29代目のガバナーに就任する事は大変なる重みを感じています。現在の2800地区、各クラブの発展は、歴代のガバナーの皆様方、そして多くの先輩ロータリー会員の皆様方のご尽力によるものと心より感謝申し上げます。歴代のガバナーの皆様方、多くの先輩ロータリー会員の皆様方の的確なる指導を見本とさせていただき、浅学菲才な私ですが全力で一年間努力していきたいと考えております。宜しく申し上げます。

私はロータリーに30年間在籍させていただきました。その中で色々な考え方、各年度のテーマを考えるチャンスがありました。クラブ幹事を担当した2002-2003年RIテーマは「慈愛の種を播きましょう」でした。元ビチャイ・ラタクルRI会長年度のRIテーマが私のロータリー活動の中で一番強く残っています。「慈愛の種を播く事は、人生を通して、日々の奉仕する機会を見つけることです。慈愛の種を播くことは、他人のことをまず考え、他者のために何ができるかという側面から自分のことを考えることです。」とメッセージを発信されました。当時クラブ幹事としてこのメッセージを聞き、大きな感動を受けた記憶があります。

現在ある各クラブは、多くの先輩ロータリー会員により受け継がれ、変化しながら現在に至っています。そこには多くの努力と知恵が注ぎ込まれていることとっております。現在、地区に、ブロックに、クラブに色々な課題が多く発生しています。その中でも会員数の減少は大きな課題です。

自分自身の事を考えてみましょう。会社を経営したり、先生として活動されたり、各会員は自分の仕事を真剣に考え、色々なアイデアを持ち、今後の進む道を模索し、果敢にチャレンジしていることと思います。切磋琢磨しなければ生き残れない時代になっていることも事実と思います。ロータリークラブも同じでは無いでしょうか。現状に満足すること無く、果敢に色々なアイデアを出し合い、今後に繋がるような仕掛けが必要と考えます。その為には年度内での結果を求めるのでは無く、将来を考え、皆さんと共に「ロータリーの木」の苗木を植えませんか。今は小さな苗木でも、将来は大きな木となり、「ロータリーの森」を形成する一本の木となれば良いのではないのでしょうか。ロータリーの心で、クラブに、地域社会に、世界に、そして次世代の為に小さな「ロータリーの木」の苗木を一年間皆様方と植えて行きたいと思っております。大きな木に成長する希望を持ち、課題を解決できる木になる事を願って。大きな収穫時期が来ることを信じて。

私はこの考え方を進めるにあたり、ビチャイ・ラタクル元RI会長にメールをさせていただきました。そしてメッセージをいただきました。私より送りました内容で、訳文があいまいな部分がありましたが基本は、当然RIテーマを重視し、考え方として活用いただければ、とのメッセージをいただきました。当然のことと思います。そこで私は「ロータリーの木」の苗木を植えましょう、と考えました。一年間進めて参ります。ご一緒に皆様方と進めて参りましょう。